

### 教育内容

分野	教育内容	科目名称	単位	時間	担当講師 【開講時期】	科目目標 【設定理由】	科目内容	医学書院 教科書
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	2	60	実 【1年通年】	看護とは何か、看護師とはどのような職業か、看護の概念について理解する。	1 科目ガイダンス 序章：看護を学ぶにあたって 2. 3. 4. 5 第1章 看護とは 看護の本質 看護の役割と機能 看護の継続性と連携 6. 7. 8. 9 第2章 看護の対象の理解 人間の「こころ」と「からだ」、「暮らし」の理解 10. 11. 12. 13. 14. 15 第3章 国民の健康と生活 健康のとらえ方 ライフサイクルと健康 16. 17. 18. 19 第4章 看護の提供者 職業としての看護、継続教育とキャリア開発 20. 21. 22. 23 第5章 看護における倫理 現代社会と倫理 歴史的経緯と看護倫理 24. 25. 26. 27. 28 第6章 看護の提供のしくみ 看護をめぐる制度と政策 サービスとしての看護 29. 30 国家試験対策学習とまとめ	専門分野 基礎看護学 「看護学概論」
		看護学概論Ⅱ	1	30	実 【1年通年】	看護専門職としての基本的役割を理解する。	1 序章 看護技術とは 2. 3 第2章 感染防止の技術 標準予防策と感染経路別予防策 4. 5 <b>手洗い、PPE演習</b> 6-10 第1章 コミュニケーション 意義と目的 構成要素と成立過程 コミュニケーションスキルの実際 リフレクション 11-15 第3章 安全確保の技術 誤薬防止 患者誤認防止 転倒転落防止	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅰ」
		看護研究	1	30	実 【2年通年】	看護の本質を研究のプロセスから理解する。	1 第1章 看護研究とは 看護研究の役割と特徴、歴史、重要性 2 第4章 研究における倫理的配慮 3 第5章 研究デザイン 質的研究と量的研究 4 第6・7章 データの収集と分析 5 ケーススタディとは ケーススタディのまとめ方 6 クリティークについて 7-10 基礎Ⅱ 受持ち事例検討 ケーススタディ作成 11. 12 ケーススタディ発表会 13. 14 関西看護研究大会への参加 15 関西看護学生研究大会 参加レポート作成	専門分野 「看護研究」
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	実 【1年後期】	看護実践としての方法論を学び思考プロセスを理解する。	1 第5章 看護過程展開の技術 看護過程とは 2 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 3 看護過程の各段階 看護記録 4. 5 ハンダーソンニード論による看護過程展開 6. 7. 8 事例展開①全体演習 9. 10. 11 事例展開②個人演習 12. 13 第6章 学習支援 14. 15 NANDAⅠ看護診断について	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅰ」
		基礎看護学方法論Ⅱ	2	60	実 【1年前期】	人間にとっての環境、食事、排泄、活動と休息、清潔を看護の視点から捉え、対象の日常生活を調整してゆくための基礎的知識と援助技術を習得する	第1章 環境調整技術 1. 2 療養生活の環境 病室の環境アセスメント 3 <b>ベッド周囲の環境整備演習 (モデル人形による臥床患者)</b> 4. 5 <b>臥床患者の病床を整える演習 (モデル人形による臥床患者)</b> 第2章 食事援助技術 6. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に関するアセスメント 7. 視力障害のある臥床患者の食事介助演習 (学生同士アイマスク着用) 8. 9 食事摂取の介助の基礎知識と援助の実際 10. 11 経口的栄養摂取の援助 経管栄養法、中心静脈栄養法 第3章 排泄援助技術 12 自然排尿および自然排便 基礎知識 一時的導尿と持続的導尿 排便を促す援助の基礎知識 洗腸と摘便 13. 14 自然排尿と自然排便の介助の実際 15 モデル人形でのグリセリン洗腸演習 16 <b>排泄援助まとめ</b>	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」  専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」  専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」

分野	教育内容	科目名称	単位	時間	担当講師 【開講時期】	科目目標 【設定理由】	科目内容	医学書院 教科書
専門分野	基礎看護学	基礎看護学方法論Ⅱ					第4章 活動・休息援助技術 17 基本的活動の援助 よい姿勢、ボディメカニクス、体位、移動体位保持、ポジショニング 18. 19 車椅子の自走体験 モデル人形のベッドからストレッチャーへの移動と移送演習 20. 21 睡眠・休息の援助	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」
		基礎看護学方法論Ⅲ	2	60	実 【1年通年】	診療の補助及び検査・処置時の援助の方法を習得する	第6章 清潔・衣生活援助技術 22. 23 清潔援助の基礎知識と援助の実際 24. 25 清潔援助の実際(足浴・手浴) 26. 27 清拭・洗髪 28. 29. 30 臥床患者(モデル人形)の上半身清拭と寝衣交換演習(モデル人形で実施)	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」
	基礎看護学方法論Ⅳ	基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	実 【1年後期】	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学ぶ。	第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1 薬法・温罌法、冷罌法 2. 3 湯たんぽ、水嚢、水枕演習(学生同士で患者、看護師役) 4 身体ケアを通じてもたらされる安楽	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」
							第7章 呼吸・循環を整える技術 5 酸素療法の基本知識と援助の実際 6 排痰ケアの基本知識と援助の実際 吸入の基本知識と援助技術 7. 8 モデル人形による口腔、気管内吸引演習(吸引前後にネプライゼーションマスク装着) 9 体温調節、末梢循環促進ケア	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」
							第8章 創傷管理技術 10 創傷処置、包帯法、褥瘡予防 11. 12 巻軸帯の巻き方、三角巾上肢固定演習 モデル人形によるガーゼ交換演習(無菌操作)	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」
							第9章 与薬の技術 13. 14 経口与薬、口腔内与薬、吸入、点眼、点鼻 経皮的与薬、直腸内与薬 15 注射の基本知識と実施法、針刺し事故防止 16. 17 静脈内注射、採血演習(シンジヨー君使用)	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」
							18-25 技術試験練習 設題① 点滴をしている患者(モデル人形)の上半身清拭と寝衣交換 設題② 臥床患者(モデル人形)の創傷の処置を行い包帯を巻く 設題③ シンジヨー君での採血と検体の取り扱い 25-30 技術試験 A	
							第4章 ヘルスアセスメント ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 1 フィジカルイグザミネーション 2 フィジカルアセスメントに必要な技術 3 バイタルサインの観察とアセスメント 4 計測の実際とアセスメント 5. 6 系統別フィジカルアセスメント 7 VS測定、観察 8. 9 VS測定、観察 10. 11 腸蠕動音、呼吸音、心音聴取演習(学生同士の実施) 12 心理社会的側面のアセスメント	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅰ」
	13 VS測定練習 設題④ VS測定結果を記録し報告する(ペアで患者役、看護師役を実施) 14. 15 技術試験 B							
	基礎看護学方法論Ⅴ	基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	実 【1年後期】	診療の補助に必要な技術を習得すると共に、緊急時の対応や看護における葬送儀礼と死後の処置の実際を学ぶ。  健康状態の経過に基づく看護の基本を理解し、主要症状を示す患者への看護を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ 第10章 救命救急処置技術 1-3 救命救急処置の基礎知識 心肺蘇生法、止血法、院内急変時の対応 救命蘇生演習(消防署) 4. 5 症状・生体機能管理技術 第11章 検体検査(血液、尿、便、喀痰) 6. 7 生体情報のモニタリング(心電図、SpO2)等 第12章 診察・検査・処置における技術 8-10 診察の介助、検査処置の介助 第13章 死の看取りの援助 11 葬送儀礼と死後の処置 臨床看護総論 12-15 第2章 健康状態の経過に基づく看護 第3章 主要な症状を示す対象者への看護 第5章 臨床判断モデルによる看護実践の展開	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技術Ⅱ」 「臨床看護総論」

分野	教育内容	科目名称	単位	時間	担当講師 【開講時期】	科目目標 【設定理由】	科目内容	医学書院 教科書
専門分野	地域・在宅看護論	在宅看護概論	1	30	【2年前期】	在宅療養者と家族を理解し、保健・医療・福祉の連携における看護の役割を理解する。	1 在宅看護の目的と特徴 2. 3 兵庫県リハビリテーションセンター「福祉のまちづくり研究所」施設見学 4 在宅看護の対象者 5 在宅療養の基本・法令・制度 6 在宅看護の制度 7. 8 訪問看護サービスのしくみと提供 9 療養の場の移行に伴う看護 10. 11 地域包括ケアシステムと多職種連携 12. 13 在宅看護のケースマネジメント 14. 15 これからの地域・在宅看護	専門分野 「地域在宅看護論Ⅰ・Ⅱ」
		地域看護概論	1	30	【1年後期】	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。	1 地域看護の理念と目的 2 看護職の活動の場と特性 3 地域看護の変遷 4 地域看護と倫理 5 人々の生活と健康 6-8 地域看護と社会 コミュニティ、環境、産業と経済 法律と行政、文化 9. 10 地域看護の方法(コミュニティの支援) 11. 12 地域看護の方法(個人家族への支援) 13. 14 地域包括ケアシステム 14. 15 これからの地域看護	専門分野 「地域在宅看護論Ⅰ・Ⅱ」
		地域在宅看護方法論Ⅰ	2	30	実 【2年後期】	日常生活を中心とした在宅看護、援助の基本について理解する。	1 在宅ケアとケアマネジメント 2 訪問看護の特徴と流れ 3. 4 療養者への日常生活援助 清潔、排泄、便秘、嚥下障害、服薬管理 移動、訪問入浴の実際 5. 6 医療管理を要する人の看護 褥瘡予防とケア、バルンカテーテル 自己導尿、胃ろう、中心静脈栄養 在宅酸素療法、気管切開、人工呼吸器 エンドオブライフケアの特徴と在宅での	専門分野 「地域在宅看護論Ⅰ・Ⅱ」
成人看護学	成人看護学概論	成人看護学概論	1	15	実 【1年前期】	1. 成人の生活と健康に関する基本的知識を理解する。 2. 成人の多様な健康状態や対応するための看護アプローチの基本的な考え方やその看護方法を理解する。	1 第1章 成人と生活 2 第3章 成人への看護アプローチの基本 3 第6章 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4 第7章 慢性病との共存を支える看護 5 第8章 障害がある人の生活とリハビリテーション 6 第9章 人生の最期のときを支える看護 7 第14章 新たな治療法、先端医療と看護	専門分野 成人看護学 「成人看護学総論」
		成人看護学方法論Ⅰ	1	15	実 【1年後期】	1. 現代生活における健康リスクと成人の健康問題との関係について理解する。 2. 成人の健康問題と健康生活を支えるシステムについて理解する。	1-3 第2章 生活と健康 4 第4章 ヘルスプロモーションと看護 5-7 第5章 健康をおびやかす要因と看護 健康バランスの構成要素 健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題と予防	専門分野 成人看護学 「成人看護学総論」
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	実 【2年前期】	呼吸、循環、消化・吸収機能障害をもつ人に対する急性期の看護を理解する	1 成人看護学に必要な看護診断 急性期の看護について 呼吸器、循環、消化吸収解剖生理 事例とクリニカルパスの読み取り学習 2 事例に応じた術前後の看護学習 3-7 術後当日及び1日目の行動計画立案 事例に応じた術後1日目の病室作成(モデル人形使用) 8. 9 発表会と評価 10. 11 技術演習 心電図(3点)心電図胸部誘導 呼吸音・心音聴取 (フィジコモデル人形) 12. 13 ドレーナージ観察と固定・管理 技術演習 14. 15 技術練習および試験	専門分野 成人看護学 「呼吸器」 「循環器」 「消化器」 「臨床外科看護総論」 「救急看護学」



分野	教育内容	科目名称	単位	時間	担当講師 【開講時期】	科目目標 【設定理由】	科目内容	医学書院 教科書
専門分野	小児看護学	小児看護学概論	1	30	美 【1年後期】	小児看護の特徴や理念を理解し成長発達や疾患の状況に応じた看護を学ぶ。	1 小児看護学ガイダンス 小児看護の特徴と理念 2. 3. 4 子どもの成長発達のプロセス 4. 5 小児看護学に関連する理論と看護 6 子どもの福祉と養護(外部講師) 7 子どもの権利と大人の役割 8. 9 子どもと家族の看護 10. 11. 12 子どもの疾病の経過と看護 13. 14 新生児・未熟児の看護 15 新生児・未熟児の看護演習	専門分野 小児看護学 「小児看護学概論小児臨床看護総論」 「小児臨床看護各論」
		小児看護学方法論Ⅰ	1	15	美 【2年前期】	子どもの健康の維持増進、疾病予防のための保健活動を理解する。	1 小児と家族の諸統計 出生率・死亡率の推移 2 小児の栄養・離乳食、母乳・ミルク・発達評価 3 新生児・乳児への保健活動 保健所健診 4 幼児・学童への保健活動 予防接種・性教育 5 思春期・青年期の保健活動 学校保健安全法 6 子どもの人権・法律 地域保健活動 7 障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護	専門分野 小児看護学 「小児看護学概論小児臨床看護総論」
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	美 【2年前期】	小児各期の疾患、治療、検査の実際及び小児臨床看護の実際を学ぶ。	1 第5章免疫アレルギー疾患第7章呼吸器疾患 2 第6章感染症 第16・17章眼・耳鼻疾患 3 第10章血液・造血器疾患 第11章悪性新生物 4 第12章腎疾患 第19章事故・外傷 5 第4章内分泌疾患 第9章消化器疾患 6 第8章循環器疾患 第14章運動器疾患 7 第13章神経疾患 第15章皮膚疾患 8 第1章染色体異常、先天異常 9 第3章代謝性疾患 第18章精神疾患 8. 9 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 10. 11 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 12. 13 検査・処置を受ける子どもの看護 14 事故・外傷と看護 15 全体のまとめ	専門分野 小児看護学 「小児看護学概論小児臨床看護総論」 「小児臨床看護各論」
		小児看護学方法論Ⅲ	1	30	美 【2年後期】	小児看護に必要な看護技術を得得する。	1. 2 子どもと家族のアセスメント 3 小児看護学に必要な看護診断の読み解き 4-8 事例による小児看護過程の展開 グループワークと発表 9-11 事例に応じた看護(救急看護を含む) 12. 13 個人課題(ティーチング)及び小テスト 14. 15 小児看護に必要な技術演習 小児の点滴固定 微量輸液セット管理 薬液準備	専門分野 小児看護学 「小児看護学概論小児臨床看護総論」 「小児臨床看護各論」
母性看護学	母性看護学	母性看護学概論	1	15	美 【1年後期】	母性看護の対象の特徴と看護の役割、性と生殖の意義について理解する。	1 母性の概念、リプロダクティブヘルス/ライツ 2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 3. 4 母性看護学に関連する理論、考え方 5 母性看護における倫理的課題と責任 6 母性保険と母子保健の動向 7 母性保護と関連施策 女性・家族のライフサイクル セクシュアリティの発達と健康問題	専門分野 母性看護学 「母性看護学概論」
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30	美 【2年前期】	母子の健康の動向及び母子保健医療対策について学び、健康の維持・増進・疾病予防のための保健活動を理解する。 妊娠・分娩期の生理的変化や経過及び看護について理解する。	1 社会環境の変化と子産み・子育て 母性看護の現状と動向 2 家庭環境及び家族関係・役割 母性看護に関する組織と法律 3 周産期医療システムと母子保健施策 4 女性のライフサイクルと母性看護 5 成熟女性の看護 成熟女性の特徴 女性と結婚 6 家族計画と母子保健/女性と妊娠・出産・育児 7 リプロダクティブヘルスケア 8 更年期以降の女性の看護 9 妊娠における看護 10. 11 妊娠の生理/心理・社会的特徴 12 妊婦と胎児のアセスメント 13 妊婦の健康管理と日常生活への看護 14 分娩期における看護 15 分娩の発生機序、進行 分娩の進行に伴う看護	専門分野 母性看護学 「母性看護学概論」「母性看護学各論」
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	【2年後期】	産褥期及び新生児の生理的変化や経過及び看護について理解する。 妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的変化をふまえ、必要な看護技術を得得する。	1. 2 新生児期における看護 3. 4 新生児期における看護演習 5. 6. 7 産褥期における看護 8. 9. 10. 11 看護過程の展開 「正常妊産褥婦・新生児の看護」 12. 13 妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期に必要な技術演習 14. 15 技術試験	専門分野 母性看護学 「母性看護学概論」「母性看護学各論」

分野	教育内容	科目名称	単位	時間	担当講師 【開講時期】	科目目標 【設定理由】	科目内容	医学書院 教科書
専門分野	母性看護学	母性看護学方法論Ⅲ	1	30	実 【2年後期】	異常妊娠・異常分娩・異常産褥及び異常新生児の病態・治療と母子、家族に及ぼす影響について理解する。  ハイリスク及び異常妊婦・産婦・褥婦・やその家族への看護について理解する。	1 妊娠と不妊 2. 3 妊娠経過 I・II 4 異常妊娠と合併症妊娠 5 分娩の経過 正常と異常 6 産褥の経過 正常と異常(分娩監視装置含む) 7 産褥と新生児 新生児の異常 8. 9 ハイリスク妊婦の看護 10 異常のある産婦の看護 11 異常のある褥婦の看護 12 異常のある新生児の看護 13. 14 精神障害合併妊婦と家族の看護 15 終講試験	専門分野 母性看護学 「母性看護学各論」
	精神看護学	精神看護学概論	1	15	実 【1年後期】	こころの発達と健康について理解し精神看護学の概要と精神看護の機能と役割を学ぶ	1 こころとは こころを病むとは 2 ストレスと防衛機制 3. 4 こころを病む対象への看護ケア理論 5. 6 精神看護の目的・対象・特徴 精神看護における倫理 ケアを必要とする状況	専門分野 精神看護学 「精神看護の基礎」
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30	実 【2年前期】	こころの健康の保持、増進に対する基礎的知識を学び看護で活用する方6.法について理解する	1 長期入院患者の地域移行支援の展開 2 SSTIについて 3 認知行動療法について 4 入院形態・気分障害の理解 5 発達障害の理解・摂食障害の理解 6 トラウマインフォームドケア・統合失調症患者の行動特性 7 オープンダイアログ 8 コンコーダンススキルの紹介と実践 9 ケアの前提・ケアの原則 10 ケアの方法 11 地域移行支援の実際 12 リフレーミングについて 13 WRAP体験 14. 15 障害者福祉サービスについて	専門分野 精神看護学 「精神保健福祉」
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	実 【2年後期】	精神障害のメカニズムを考え主な疾患の病態・治療と生体に及ぼす影響について学ぶ  精神に障害のある患者や家族への援助に必要な知識・技術を学ぶ	1. 2 精神症候学総論 統合失調症 3. 4 気分障害 認知症 5 不安障害・強迫性障害・解離性障害 身体表現性障害・依存症ほか 6 薬物治療・薬理作用・副作用 7 精神療法 8 精神科における看護の役割： 入院治療の意味を理解する 9 安全を守る・治療的環境を作る 10 緊急事態に対処する 11 CVPPP 12 疾患症状に対する看護(統合失調症・知覚・妄想) 13 疾患症状に対する看護(不安・パニック(強迫症)) 14 15 疾患症状に対する看護(うつ病・双極性障害)	専門分野 精神看護学 「精神看護の基礎」 「精神看護の展開」
		精神看護学方法論Ⅲ	1	30	実 【2年後期】	精神に障害を持つ人を理解し、必要な看護技術を修得する	1. 2. 3. 4 精神科におけるコミュニケーション技法とプロセス レコード 5. 6. 7. 8. 9. 10 精神疾患をもつ人の生活変化を中心とした看護過程の展開 1) 統合失調症の消耗期にある患者の看護 2) 統合失調症急性期の患者の看護 3) そううつ病の患者の看護(そう状態) 4) そううつ病患者の看護(うつ状態) 11. 12. 13. 14. 15 精神看護技術と問題行動への関わり	専門分野 精神看護学 「精神看護の基礎」 「精神看護の展開」
	看護の統合と実践	医療安全と看護	1	30	【2年後期】	看護における医療安全を再認識し予防・回避行動を考える。	1 医療安全を学ぶことの大切さ 2 事故防止の考え方(RCA分析、SBAR) 3. 4. 5. 診療の補助の事故防止 6. 7. 8 療養上の世話の事故防止 9. 10 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 インシデントアクシデントレポート作成 11 医療安全とコミュニケーション 12. 13 組織的な安全管理体制への取り組み 病院における医療安全(看護部長) 病院における感染予防対策(認定看護師) 14 看護師の労働安全衛生上の事故防止 15 医療安全対策の国内外の潮流	専門分野 看護の統合と実践「医療安全」

分野	教育内容	科目名称	単位	時間	担当講師 【開講時期】	科目目標 【設定理由】	科目内容	医学書院 教科書
専門分野	看護の統合と実践	災害と国際看護	1	30	Ⓜ 【3年前期】	基本的な災害看護の知識と技術を理解する。 グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について理解する	1 災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって 2-4 災害医療看護の基礎知識 災害の種類と特徴 災害時の支援体制と医療体制 災害と法制化 災害看護 震災追体験とその記録 防災、減災体験 5-8 応急処置(包帯法)、心肺蘇生術(BLS) 搬送法、広域搬送 演習 9-14 グローバルヘルス グローバリゼーションと看護 世界の健康問題、JICA事業の理解 青年海外協力隊経験者の国際看護の実 15 理論試験	専門分野 看護の統合 と実践「災害 看護学」「国 際看護学」
		多職種連携と看護	1	30	Ⓜ 【3年後期】	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況において、専門的立場からのサービス提供とともに各職種が連携、協働し総合的支援をすることが求められている。多職種の専門性の理解と職務の関連性や連携の在り方を学ぶ。	1 看護マネジメントの変遷と考え方 2 看護ケアマネジメントと看護職の機能 3 兵庫県看護協会ナースセンター講義 4 チーム医療とは 5 連携、協働、コミュニケーション 6 看護職の責任と役割 7-10 病院看護管理者講義(看護部長) 多職種との連携、協働 マネジメントに必要な知識と技術 演習 安全な療養環境の整備 (転倒・転落・外傷予防) 11 リハビリテーション関係職種との連携 12-15 リハビリテーション職種との協働演習 準備、まとめ、発表	専門分野 看護の統合 と実践「看護 管理」
		看護実践と技術の統合	1	30	【3年前期】	看護実践力に必要な知識・技術・態度を統合し、看護をマネジメントする基礎的能力における自己の課題を明確にする。	1 技術実践の到達度確認 2. 3. 4. 5 複数事例の情報分析と計画立案 6. 7. 8. 9 複数事例の状況に応じたケアの優先順位 治療内容、診療の補助技術、感染予防 重症度等の視点で検討 10-13 ケアの実施とリフレクション 多重課題に対する自分の傾向を知る 14. 15 技術試験	専門分野 基礎看護学 「基礎看護技 術Ⅰ・Ⅱ」 「臨床看護総 論」

「Ⓜ」は、実務経験を有する教員